



ぎふ グリーン・ライフ
フェスティバル 2025
Gifu Green Life Festival 2025

と

ぎふグリーン・ライフ推進員
養成講座



上写真 ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座の様子 (R6.12.6 (金) 各務原公園会場)

「全国都市緑化フェア」

全国都市緑化フェアをご存じですか？

全国都市緑化フェアは、国民一人ひとりが緑の大切さを認識するとともに、緑を守り、愉しめる知識を深め、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがある街づくりを進めるための普及啓発事業として、昭和 58 年から毎年、全国持ち回りで開催されている花と緑の祭典です。

主催は公益財団法人都市緑化機構と開催地の地方公共団体なのですが、何と令和 7 年度の開催地は私達が暮らす岐阜県なんですよ。

第42回全国都市緑化フェア「ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025」

第42回全国都市緑化フェアは「ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025」と銘打ち、「“清流の国ぎふ”から広げる自然と共生した暮らし」というテーマに沿って、令和 7 年 4 月 23 日（水）～6 月 15 日（日）の 54 日間、県営都市公園を核とし、岐阜県全域で開催されます。

これまで岐阜県では花木を通して豊かな心をはぐくむことを目的として、“花フェスタ'95 ぎふ”、“花フェスタ2005ぎふ”、“花フェスタ2015ぎふ”を開催してきましたが、今回の「ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025」では、7つの会場でそれぞれ会場テーマを設けて、花・みどりを切り口に、“清流の国ぎふ”の自然と共生した暮らし（グリーン・ライフ）を体感・体験する多彩な取組みを展開するそうです。

今からとても楽しみです。

（第42回全国都市緑化ぎふフェア公式ホームページ：

<https://gifu-green-life-fes.pref.gifu.lg.jp/>）

	ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025の会場		会場テーマ
1	ぎふワールド・ローズガーデン	可児市	バラ・花
2	ぎふ清流里山公園	美濃加茂市	里のみどり
3	養老公園	養老町	歴史・文化、アート
4	世界淡水魚園	各務原市	水・川
5	岐阜県百年公園	関市	木・林
6	各務原公園	各務原市	未来・夢
7	飛騨会場	飛騨地域の大自然	森



上図 温かく親しみの持てる
シンボルマーク

「ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025」のシンボルマークは、岐阜県のかたちをモチーフとした木の姿をしており、5枚の葉っぱを「岐阜・西濃・中濃・東濃・飛騨」の各圏域に見立てている。

そこに水や魚の図形を加えることで「清流の国ぎふ」の豊かな自然とフェアの各会場を同時に表現し、またグリーンを基調にカラフルな色を組み合わせることで、賑やかなフェスティバルのイメージを伝えている。

ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025で活躍する「ぎふグリーン・ライフ推進員」

岐阜県では来年度のフェアを契機に、県内の花・みどりの活動を推進することを目的として、花・みどりに関する知識や技術を持ち、花・みどりに関する活動をリードいただける方に「ぎふグリーン・ライフ推進員」として登録していただき、フェア開催中に会場内の植栽管理のリーダーやワークショップ講師、来場者に対する花・みどりのガイド等、会場運営のサポートをお願いします。

そして、フェア後も引き続き「ぎふグリーン・ライフ推進員」として活躍していただくため、花・みどりに関する活動をしている地域の団体（自治会、学校、企業等）に対して情報提供を行うことで、活動団体からの花・みどりの活動に関する技術指導や相談対応等の支援依頼に応じていただくと考えております。

この「ぎふグリーン・ライフ推進員」の登録にあたっては、下記のうち、いずれかの条件が求められています。

1. 花・みどりに関する活動について豊富な経験をもつ岐阜県が指定する団体等から推薦いただいた方
2. 自らが応募し、「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座」を修了いただいた方

因みに、この2つめの条件である「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座（次頁で紹介）」は既に開催済みであり、残念ながら来年度は講座の開催はありません。

そのため、「ぎふグリーン・ライフ推進員」としてボランティア活動をしたい方は、「ぎふグリーン・ライフ推進員」の担当課である都市公園課（電話番号：058-272-865）に連絡をして、お住まいに近い「岐阜県が指定する団体等」をご紹介いただく方法をとってください。

「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座」

令和7年春の「第 42 回全国都市緑化ぎふフェア」に向け、岐阜県では花・みどりの活動を県内各地に広げていくため、「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座」を令和 6 年 8 月から 12 月にかけて平日（各務原公園会場）・休日（国際園芸アカデミー会場）の 2 コースで開催しました。

養成講座は下記のとおり 5 回のシリーズとなっていて、岐阜県立国際園芸アカデミーの教授や 2025 年の世界バラ会議福山大会の推進プロジェクトマネージャーを勤める方（ワールド・ローズガーデン理事、岐阜県立国際園芸アカデミー客員教授でもある）が教鞭とってくださいました。

	講座	講座内容
第 1 回	花壇苗の植栽計画 （座学・実習）	座学では、花壇の種類や植栽計画、生態系被害防止外来種等について学びました。 また実習では、花壇計画のワークショップが開催されました。
第 2 回	花壇苗づくり （座学・実習） ※園芸福祉サポーター養成講座の内容と重複	座学では、パンジー、ハボタンなどの種まきとポット上げを行い、花壇苗栽培について学びました。 また実習では、セルトレイに播種をして、後日そこからポット上げをして、受講生はその苗を自宅に持ち帰り、発芽～開花までを管理しました。
第 3 回	花に適した土づくり （座学・実習） ※園芸福祉サポーター養成講座の内容と重複するが、より詳しい内容	座学では、花に適した土づくりについて、化学性、物理性、生物性の 3 つの視点から学びました。 また実習では、各自土を持ち寄って土壌分析を行い、分析結果をもとに、各々の土地に適正な施肥（肥料銘柄や施肥量を決めること）を検討しました。
第 4 回	花の装飾 （座学・実習）	ブリザーブドフラワーやハーバリウムについて学び、ハーバリウムを実際に制作しました。
第 5 回	花を活かした地域づくり （座学・実習）	「戦災で荒廃した街に潤いを与え、人々の心に安らぎを取り戻そう」と市民と行政が協働し、焼け野原（現在のばら公園）にばらの苗 1000 本を植栽したことを機に、思いやり・優しさ・助け合いの心“ローズマインド”で持続可能な社会の実現に向けて取り組み続けた広島県福山市の市民協働活動を通して、花を活かした地域づくりについて学びました。

「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座」の参加者からの声

岐阜市在住 長屋様(70代・女性)

私は地域の小学校や校区内で、草引きや花壇づくりのボランティア活動をしています。

所属しているボランティア団体は高齢化してきたこともあり、1年草を植える→綺麗に花が咲く→枯れる→抜く→土を作る→また1年草を植える…を繰り返すことが段々と体力的に辛くなってきたため、「宿根草に変えたいな。」と考えています。

これまでは花屋や友人から花の育て方等の情報を得ていましたが、こらできちんと勉強をすることで正しい知識を得たいと思い、この講座に参加することにしました。

参加前にはどんな花を植えると良いのか、どう管理をしたら良いのか等をもっと実践的に学べるのかなと思っていたので、実際の講義内容は少し違いましたが、ハーバリウム作りは楽しかったですし、土づくりの講義で得た知識は今後の活動に役立てることができるので、参加をして良かったなと思います。

関市在住 山森 愛平様(66歳・男性)

私は以前から森林に興味があって、山歩きをよくしています。

花木に詳しい仲間と山里を歩き、花木について教えていただける機会に恵まれたことで、最近では「花に詳しくなりたい。」と思うようになりました。

講座の参加者募集チラシを見て、「この講義を受ければ、フェアや地域で活躍できるくらいの知識や技術がつくのか」と思い、参加を決意しました。

でも受講をしたことで、土や花の勉強は奥が深いということが分かって、「今の知識ではまだワークショップを開く自信は持てない。」と感じ、まずは友人や弟等の身近な人達に今回学んだ講義内容を情報提供するところから始めていきたいと思っています。

神戸町在住 鳥澤 和之様(70歳・男性)

私は県内の県立高校の職員をしています。

学校にはサツキの植木があるのですが、1年のうち^{いつとき}一時しか咲かないんですね。

それで、花を育てるのが好きな生徒たちと、「サツキを引っこ抜いて花壇にしたいね。」なんて話したりしていたところ、新聞に掲載された「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座」の募集要項に、花壇づくりについて学べると書いてあったのを読み、参加することになりました。

今後、講座で学んだことを生かして、生徒たちと一緒に学校の花壇をより綺麗にしたいと思っています。

岐南町在住 篠田様(70代・女性)

以前「園芸福祉サポーター養成講座」に参加して修了証をいただいたのですが、園芸福祉サポーターの岐阜支部では活動の場が医療・福祉施設に限られていることから自分の想いとは少し違うなと感じて、「園芸福祉サポーター登録」を見合わせました。

うちには畑や花壇があり、個人的に花木を育てて楽しんではいるけれど、やはり長年の趣味で得た経験や園芸福祉サポーターで学んだ知識を生かして、地域の花やみどりを増やす活動をできないものかとずっと思っていました。

今回の「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座」の目的はまさに自分の想いにピッタリ。今後は「ぎふグリーン・ライフ推進員」として地域に貢献していきたいと思います。

岐南町在住 篠田様(70代・男性)

妻に誘われて、一緒に講座に参加しました。

これまで私は、妻ほど花木の知識があるわけでも関心があるわけでもなかったのですが、今回の受講をきっかけに「地域に花を増やす活動」に興味がわくようになりました。

うちの庭ではフジバカマを育てているのですが、この花は“旅するチョウ”として知られるアサギマダラ(※1)が好んで訪れる花なんです。

今ちょうど、そのアサギマダラが関ヶ原まで移動してきているという情報をキャッチしたので、うちに立ち寄ってくれないかなと楽しみにしているんですよ。

今後は岐南町の街中にフジバカマを増やす活動をして、「フジバカマとアサギマダラの街」にすることができたら素敵だな、なんて考えています。

(※1)アサギマダラは体長約10センチの蝶で、羽が淡い浅葱色^{あさぎいろ}をしている。

日本や台湾、韓国などに生息しており、春に北上、秋に南下する。

《花壇苗づくりの様子》



1. セルトレイに播種し、発芽から育苗までを見守る



2. 本葉が展開し、根がまわったらポット上げをして、更に生育を見守る(1とは別日)

その他、参加者の声

- ・「ぎふグリーン・ライフ推進員養成講座」で知り合った方々は、皆、住む街が違うので、今後は自分の住む街で活動をしつつ、たまには皆で集まって花壇づくりをしたいですね。
- ・今回学んだことをこれっきりでお終いにするのではなく、今後につなげていきたいと思いますが、花との関わりをどのようにしていくのかについては今後の課題です。
- ・花で街を華やかにする活動を、未来を担う孫の代に直接伝えていきたい。
- ・私達7人は園芸福祉協会に所属し、「園芸福祉サポーター」として活動をしています。
今回学んだことを自分達の活動にもつなげていきたい。
- ・私が暮らす関ヶ原町は、鹿による食害がひどいため、学校の校庭や沿道にお花を植えることができず、華やきがなく寂しいと感じています。野生鳥獣による森林被害についても勉強し、いつか花と緑の街にしたいと思います。
- ・講座は、花が好き、みどりが好きな方々と知り合う良い機会になりました。今後、情報を共有できることが嬉しいです。
- ・参加者が個人で育てている花の種を持ち寄って、交換しました。
今後はそういう身近なところから活動を広げていきたいと思います。

《ハーバリウム作りの様子》



1. 容器の汚れやゴミを拭き取り、消毒する



2. ドライフラワーを好きな長さに切り、容器に入れる



3. 静かにハーバリウム専用オイルを注いだら完成

第42回全国都市緑化フェア 県民協働企画(事前イベント“みんなでつくる大花壇”)

「ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025」の会場の1つである、ぎふワールド・ローズガーデンでは、令和6年12月現在、フェスティバルの開催(4月23日～6月15日)に向けて、「ウエルカムガーデン(フェア中は出典花壇エリアになる)」、「雫のプレリュード」、「花回廊」、「茶室」等、園内各所で改修工事が行われています。

そして「北の大花壇」では、令和7年2月20日(木)と22日(土)の2日間、フェアに先立ち、国際園芸アカデミーの学生が考案した植栽デザインを基に、県民参加型の花苗を植える体験イベント“みんなでつくる大花壇”を開催します。

残念ながらこのイベントは既に参加者定員に達しており(令和7年1月28日現在)、当日参加もできませんが、春になってぎふワールド・ローズガーデンを訪れた際に、『県民のみなさんや「ぎふグリーン・ライフ推進員」が頑張って作りあげた花壇なんだな』と、あたたかな気持ちでご覧いただけたらと思います。

このイベントに参加できなかったお花好きな方に朗報があります。

都市公園課によると「ぎふグリーン・ライフフェスティバル2025」の期間中には、「ぎふグリーン・ライフ推進員」のサポートの元で県民が参加できるイベントをいくつか計画中とのことです。楽しみにしててくださいね。

〔第42回全国都市緑化フェア及び事前イベントのお問い合わせ先〕

第42回全国都市緑化ぎふフェア実行委員会事務局

(岐阜県 都市建築部 都市公園・交通局 都市公園課内)

電話番号 : 058-272-8658

FAX : 058-272-2776

Mail : cll669@pref.gifu.lg.jp